

学校保健分野における研究の進め方
ここが聞いてみたいところ

近畿学校保健学会
2019年3月

学会新企画 掲載終了に際して

会員の皆様に新企画「学校保健分野における研究の進め方」総集編をお届けします。この企画は、前幹事長の宮下和久先生（現在は和歌山県立医科大学学長兼理事長）のもとで常任幹事を務めておられました西岡伸紀先生（兵庫教育大学大学院教授）および森岡郁晴先生（和歌山県立医科大学大学院教授）が中心となって始められたものです。

この企画は、学会員の研究（実践研究を含む）への理解を促し、研究方法の学習への動機付けを図り、さらに、研究への取り組み、学会等での発表を促すことを目的としてスタートしました。内容としては、①研究計画を立てる、②データを集める、③データを分析する（1）、④データを分析する（2）、⑤研究を発表するおよび⑥研究を論文にまとめるの6回シリーズで企画されました。学会通信132号から150号まで6年かけて完結することになりました。その間宮下幹事長から私に幹事長が替わり、常任幹事のメンバーも交代しましたが、執筆していただいた先生方のご協力で完成しました。

改めまして執筆いただいた先生方のお名前と執筆当時の所属を記載します。①研究計画を立てるは、西岡伸紀先生（兵庫教育大学大学院）、②データを集めるは、大川尚子先生（関西福祉科学大学）、③データを分析する（1）および④データを分析する（2）は、宮井信行先生（和歌山県立医科大学大学院）⑤研究を発表するは、藤原 寛先生（京都府立医科大学）、⑥研究を論文にまとめるは、森岡郁晴先生（和歌山県立医科大学大学院）がご担当くださいました。この場を借りまして会員を代表してお礼申し上げます。

我々がこの企画をスタートさせたころ、日本学校保健学会の機関誌、学校保健研究にも同じような趣旨の連載が始まりましたが、近畿地区にもこれだけ優れた研究者がおられることが、内容をご覧になればご理解いただけると自負しています。

当初は、できるだけ会員と執筆者との間で意見交換ができる企画にしたいと考え、学会員の皆様から、研究に関する質問を募集し、執筆者あるいは私を含めた当時の常任幹事が対応する体制を整えておりました。このまとめで最終となりますが、ご質問等ありましたら、学会事務局にお問い合わせください。

会員の皆様に活用されて初めて生きたものになります。是非ご活用ください。

近畿学校保健学会幹事長

白石 龍生